

協FTF 適材適所の提案へ

第35回
総会 ハイレイズにも注力

FFT工法協会（濱口
則和会長）は6月25日、
第35回定時総会を開催。



濱口会長

昨年度新たに取扱い工法
に加えた光タイプのハイ
レイズ工法をはじめ、取
扱い工法の普及活動に努
める今年度事業計画等を
承認した。

昨年度年度の施工実績
は、FFT—S工法が約
116・3^{キロ}、ストリ
ング工法が約1・0^{キロ}
となった。新入会員数は
63社。

今年度は、ハイレイズ
工法も対象に加え、下水
道管路更生管理技士の技
術研修・特別更新研修を
全国8地区で10回開催す
る。広報活動では、展示
会展展のほか、日本下水
道協会の下水道用管路資
器材研修会の東日本地区
4会場に参画する。

あいさつした濱口会長
は「このほど初施工が行
われたハイレイズ工法
は、従来よりも大幅に施
工時間を短縮させたこと
が特長。昨年10月には、
同工法用管更生材が下水
協のⅡ類資器材に登録さ
れた。まもなく東京都下
水道局の工法認定もいた
だく予定と伺っている。
3工法による適材適所の
工法選定ができる協会と
して、事業の一層の発展
に努めていきたい」と抱
負を語った。